鵠沼

久久比奴末

はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第３５号

１９８７年３月１０日

普門寺について　　川島　弘之

鵠沼を語る会

普門寺について

普門寺住職　　川島弘之

（１）その歴史について

当寺は密厳山　逼照院と号し、高野山真言宗。もとは藤沢大鋸の感応院末寺でした。享禄元年（１５２８，室町時代後期、戦国時代）５月、良元僧都が唐土ケ原に草創しました。元和３年３月、元朝阿闍梨（あじゃり）が　本尊不動明王を勧請し砥神ケ原の現所に再開基しました。中興は善龍、延宝４年（１６７６）２月２０日入寂。現本堂は中興開基生田浄耕第５２世が発願、建立し、慶応２年にこれを起し明治１１年５月に遷座の式をあげました。鵠沼の寺社の創立を年代順にみてみると皇大神宮は天長９年（８３２）、万福寺寛元３年（１２４５）、普門寺は享禄元年（１５２８）、空乗寺は永禄年間（１５５８～７０）、法照寺は享保年間（１７１６～３６）、一説に寛文元年（１６６１）、毘沙門堂（廃寺）は享保年間（１７１６～３６）、一説に建久６年（１１９５）、本真寺は明治３６年、伏見稲荷神社は昭和１８年です。

本尊は草創のとき十一面観音菩薩でした。この仏さまは、大東の観音堂に安置されのち廃堂になり、いまは大東公民館に安置されています。普門寺の普門はこの観音経の「普門品（ふもんぼん）」に由来していると思います。現在の本尊不動明王は江戸時代に鎌倉扇谷の仏師後藤氏によつて作られました。後藤氏の子孫は現在鎌倉彫をしておられます。

普門寺の住職は私で第５６代目になります。川島は祖父の代からです。５３世は中村真禅住職で、南多摩郡南村小川の友井与惣左衛門の３男でした。横浜の港北区新羽町の古刹西方寺の住職されたこともありました。普門寺から横浜の金沢の名刹称名寺に移り、その後伊豆韮山の北条時政の菩提寺である願成就院の住職になりました。現在その孫である小埼祥道氏が住職をしています。

５２世の生田浄耕住職までが独身でした。江戸青山五十人町の吉井正左衛門の三男で安政６年（１８５９）に当寺の住職になつています。今日の普門寺の基礎を築いた中興の祖であり、大変な活動をされました。明治２９年には感応院再建落成をしてますが、その時には当院の兼務住職をしていたことが過去帳に記してあります。明治３１年７月１７日６４才で入寂しています。

（２）　草創の地唐土ケ原

当寺が草創された唐土ケ原は唐ケ原（もろこしがはら）のことです。ここは相模

の渡来人に関連がある重要な古地名です。唐ケ原は花水川（金目川）の左右１キロメートルに位置していました。湘南の海辺にせまる高麗山の南にあたり、古相模湾（遠古は厚木・依知あたりまで湾入していた）の南縁です。『新綱風土記』によれば、大磯宿の海辺から高麗寺村および大住郡（のちに中郡と平塚市に改綱される）の海辺にわたる一帯を「唐ガ原」と呼んでいました。

唐ガ原にちなむ東歌に次の一首があります。

名にしおはば虎や臥すらむあづま路に
　　ありというなる唐ガ原　（忠　房）

唐ガ原の「唐（もろこし）」は普通は漢（もろこし・中国）ですが、ここでは外国人、特に高麗人になぞらえてつけられた地名といわれています。段氏は『日本に残る古代朝鮮』（関東綱）で、あづま路の唐ガ原に「虎の臥すらむ」とうたわれた詩句は高麗寺山を形容した句か、朝鮮虎のイメージをかりて、高麗人を詠んだ句か珍しい万葉歌詞の素材といえると述べています。

この唐ガ原には黒部の宮がありました。のち津波にあい現在の春日神社となりました。この黒部は呉部（くれべ）の宮のことで、呉は句麗で高句麗のことです。

このように渡来した朝鮮人の歴史が多く残つている唐ガ原に普門寺は誕生しました。

（３）交わりのあつた寺

寺伝によると明治１１年５月１１日より１３日まで還仏式が普門寺において修行されました。大導師は高野山金剛峯寺住職　猊岳快猛、高野山慈眼院、同寂静院、横浜金沢の龍華寺、太田の東福寺、手広の青蓮寺、茅ケ崎の円蔵寺、藤沢感応院、一の宮の安楽院、甘沼の東漸寺、極楽寺の成就院、町谷の泉光院、戸塚の宝蔵院、大船の多聞院、腰越の浄泉寺、片瀬の密蔵院、津村の宝善院、腰越の満福寺、寺分の東光寺、金沢野島の善応寺、同三分の宝樹院、宮山の西善院、菱沼の長福寺、柳島の善福寺、萩園の万福寺、日野の安養寺、平塚の薬師院、保土ケ谷の真福寺、小和田の広徳寺、荘厳寺、宝珠寺、大和福田の蓮慶寺、大庭の成就院、小和田の千手院、金沢富岡の宝珠院、瀬谷の宝蔵寺、久保の自照院、川名の神光寺、梶原の等覚寺、の諸寺院が助法列座しています。

（４）　相模準四国八十八ケ所霊場

この霊場は、文化２年（１８０５）、堀川の浅場一氏の本家にあたる浅場太郎右衛門（今いま子孫は東京におり、墓地のみが浅場一氏宅裏にあります。）が下総国相馬郡の準四国八十八ケ所霊場を知り、これを相模にもつくりたいと思いました。父の死後文化３年（１８０６）息子の太郎右衛門がその思いをつぎ、普門寺住職の

善応密師に相談をし、共に近郷近在の寺社や村々に働きかけ、相模準四国八十八ケ所の創設にとりかかりました。

文化１４年（１８１７）に善応の弟子である鵠沼大東の観音堂庵主浄心を四国に行かせ、本四国八十八ケ所霊場の土砂と宝印を持ち帰らせて、それを寺社に配布し埋めていただきました。文政３年（１８２０）から文政４年には大師石像もでき設置することができるようになりました。

文政４年１月当時の龍矩師が『新四国八拾八箇所順路記』において、その由来を次のように書いています。

（巻頭文）

「抑、真言密教の有がたき事は大日覚王秘密最乗極醍醐味妙典の法楽納経超絶の宗王なれば、菩提（えんだい）の人もその教菓に逢うときは、一味解脱の床に登り同じ得達の法味を賞せん。況や四衆の輩に於てをや。かくの如くの経王貴類光明真言阿字（あうん）の本源は、一切衆生の胸中に法爾法然と備れば、阿字は則ち第一命にして、みな人々の命なれば、是れ唱ふるときは自身本覚の都にあそび、速かに神通の宝輅に賀して、即身成仏の本理に叶い世に高祖弘法大師の恩法一天に輝き四海に普し。この日域に生れたる人、貴きも賤しきも誰一人として洩らさず。いろは四十八字の教戒にあはざるものなしと、其の恩高き事須弥山に等し。その法の深き事滄溟海に類す。ここに相模国高座郡鵠沼村に於て、大師の高恩を報ぜむがために、心願を発し当国に四国八拾八ケ所の霊仏を安置することを郷党隣里にすすめ、これいわゆる天下泰平、国土安穏、諸人快楽、其の願望ここに成就す。すべからく老若男女貴賤共に押並て、八拾八ケ所の霊場参詣いたさば、現世安穏　未来成仏　二世安楽　無病無難　息災延命　諸災消除　家内安全　子孫永久　富貴繁昌にして誠に大師の擁護にあづかり、五十六億七千万歳の終り、三会の暁迄霊場の尊体霊験日々新にして尊き事有り難きなりと。云々。

文政四辛巳初春　　龍矩敬記

（後　書）

右奉写四国は大悲胎蔵の四重円壇に擬し、八十八箇の仏閣は八葉の蓮華と十界皆成の曼荼羅を示すよし。是れ高祖大師神変加持頓覚の霊場也。人々この円壇に入て自己の心蓮をひらかんとすれども、山海数万里にして路程の費また許多にして腰屈弱脚の老若男女及ばざる処なり。この故に彼の霊場の土砂並びに宝印を礎下に埋め、この地に写し奉らむと心願を発し、近村に造立せんとするに嗚呼貴かな数多の

尊像誠志の人々、その勧に応じて忽に願望成就す。依て絹礼いたすべきものなり。

文政四年辛巳春三月拝写之

普門寺什宝

発起人は　浅場太郎右衛門

四国廻り　東庵主浄心

再建　五十二世浄耕」

浅場太郎右衛門の奉仕により、相模にも準四国八十八ケ所霊場が設けられ、近郷近在の大師信仰のもととなり、心の安らぎを与えることができるようになつたことに対して、各地の光明真言講が、太郎右衛門の言葉を彫つた供養塔を文政１０年（１８２７）３月１日に建立しました。この塔は普門寺境内の右手にあります。浄心の墓石は水子地蔵尊の横にあります。

この札所巡りは春秋の彼岸にお年寄りの男女からなる大師講の檀信徒が中心になり、巡礼をしておりました。昭和３０年代、経済成長とともに土地開発が進められ巡礼路にもトラックが通るようになり、歩いて巡ることは危険になり、中止になりました。しかし近年、豊かな物質生活によつても、心の安らぎがえられず、それを求めて老若男女の寺社巡りが盛んになつてまいりました。幸い昭和５８年は弘法大師１１５０年御遠忌にあたり、私が相模準四国八十八ケ所の寺院を一ケ寺づつ『湘南よみうり』に一ケ月に一回紹介しております。近く再建し、本にしたいと思っています。なお、当寺の札所は第４７番、８８番です。境内の右側に瓦葺き方桁造りの大師堂があります。

（５）普門寺の仏像、仏画

本尊不動明王の脇に金剛界（智恵・男性原理）と胎蔵界（慈悲・女性原理）の大日如来を安置。ともに江戸時代、鎌倉扇谷の後藤仏師の作です。同人作の阿弥陀如来立像の体内から、明和２年（１７６５）の『大乗妙典奉納帳』、明和６年（１７６９）の『四国中奉納大乗妙典日本廻国霊場』が出てきました。これによると、相模、伊豆、西国、伊勢、四国とかなり広範囲に巡礼していたことがわかります。願主は鵠沼の渡辺万右衛門とあります。その他に弘法大師像、愛染明王像。仏画は平安までさかのぼるのではないかという両界曼荼羅、かなり古いという愛染明王、兆殷司作の不動明王等があります。

梵鐘は寛政３年（１７９１）造ですが、大平洋戦争に供出し、現在のものは昭和４９年造です。

（６）普門寺と俳諧

幕末藤沢俳諧の中心人物であつた如々（墓は大鋸の感応院）の指導を受けた鵠沼の俳人の指導者の一人に普門寺の如蕉がいます。彼は先に述べた当寺の中興、成田浄耕住職でした。如蕉の句、「庭先へ野の影移る霞哉」。

（７）普門寺の行事

修験道秘法護摩供　正月１５日、祇園天王祭　７月１４日、お堂は山門入つて左にあり、清水町内の人たちには「天王さま」として親しまれています。江戸時代、疫病が流行したときに造立されました。夕方から町内の人たちが集まり、太鼓をたたき、笛を吹き、寺では子供たちに、「福引」を催しています。除夜の鐘　１２月３１日、大師講御詠歌　毎月第一、二月曜、　日曜礼拝　第三日曜、琴の教室　金曜日。

＊なお鵠沼小学校は、明治５年普門寺において「鵠沼学舎」として誕生しました。

おわり